

令和 7 年度 第 3 回
(仮称) 富士宮市立郷土史博物館基本計画策定委員会

日 時 令和 7 年 10 月 6 日 (月) 14 : 00 ~ 16 : 00
場 所 富士宮市役所 4 階 410 会議室

次 第

1 開 会

2 議 事

(1) 第 2 回ワークショップ、博物館見学ツアーの実施報告

資料 1

別紙 1

資料 1 - 2

(2) 施設整備計画 (案)

資料 2

① 基本方針および全体構成

② 収蔵計画

③ 諸室構成と規模

(3) 立地

資料 3

3 閉 会

（1）第2回ワークショップの実施報告

（仮称）郷土史博物館基本計画策定ワークショップ～富士宮市に必要な博物館とは～②

日 時 令和7年9月27日（土）13:30～16:15

会 場 市役所7階 特大会議室

参加者 11人（前回と同じ3グループに別れ、各グループに学芸員が入る）

内 容 ① 前回の意見内容の確認

② グループごと博物館の提案作成

- ・基本構想の基本理念・役割、たくさんの人に利用してもらえる博物館、富士宮の良いところを活かして、まちづくりに貢献する博物館を念頭に
- ・テーマ→博物館でできること→利用者→必要な機能・設備等→場所→周辺との連携



・グループの提案 → 別紙1

グループ A

別紙 1

テーマ『気軽にに行ける(学べる)歴史で人を引きつける博物館』

博物館でできること

<気軽さ>

- ・スキマ時間に歴史に触れられる
- ・何度も行きたくなる（来るたび発見がある）

必要な施設・機能

- ・休憩スペース
- ・売店、カフェ

<学習>

- ・五感を使った体験と学習
- ・誰でも調べられる 初心者から専門家まで

必要な施設・機能

- ・図書室
- ・体験学習用の工作室や更衣室
- ・多目的室
- ・見られるバックヤード

<福祉>

- ・バリアフリー
- ・災害時の拠点

場所

- ・広さの白糸
- ・バランスの万野
- ・利便性のきらら
- ・歴史ロマンの大宮小

グループ B

テーマ『地域(空間 世代)をつなぐ博物館』

博物館でできること

- ・子供が学校・家でできない体験ができる。
- ・地域に係る知識、体験の共有ができる。
- ・地域を知る第一歩になる。(敷居は低く、間口は広く)
- ・過去、現在、未来をつなげていく流れをつくる。
- ・子どもも大人も幅広い体験(民俗・歴史・芸術・産業等)ができ、幅広い関心への種まきとなる。
- ・雨の日／暑い日に集まることができる(動画・絵本)
- ・交流の場になる
- ・体験から学びにつながる

必要な施設・機能

- ・古民家のような場所で(または移築)昔の暮らしや遊びを体験！
教師は地域の高齢者→高齢者の生きがいにも
縄をなう、カマドでご飯、竹細工、柿渋 etc……
- ・湧水を利用して川の流れのある空間 水車、川、井戸、ししおどし、水琴窟

場所

万野風穴池田公園

おすすめポイント

冬の厳しさがマシ、体験できる広さがある、風穴の近くにある、水辺がある

グループ C

テーマ『未来へ地域の歴史資源をつなぐハブとなる博物館』

博物館でできること

連携：

- ・周辺自治体の博物館等との連携
- ・市内・河口湖などの歴史・文化施設への紹介ができる
- ・離れた地域へのアクセス（カーシェアなど）

体験：

- ・バーチャル体験（巻き狩り・富士登山など）
- ・本物に触れる（土器など）
- ・小中学生が案内や管理のボランティア
- ・語り部学習

学習：

- ・市内の歴史・文化を発見するきっかけ
- ・浅間大社について知ることができる
- ・ジオラマを設置して学ぶ
- ・地域の文化資源を活用して学ぶ

留意してほしい点

- ・日本史との関連性を意識して欲しい。
富士山の噴火は日本に影響を与えている。
- ・ストリップダウン方式の建て方
→優先順位を考え、段階的な計画を
- ・最終的には日本一を目指す！
- ・ソフト面重視（ものより人）
- ・アマチュア（在野）の技術も採用（登用）する
- ・子どもが「行きたい！」と思える場所

必要な施設・機能

- ・土器などを手で触る体験の場
- ・案内所（相談員・コンシェルジュがいる）
→養成所の設置
- ・市内の文化財を発信する場
- ・しっかりした保存場所

場所

- ・神田川観光駐車場（付帯：旧富士美術館）

おすすめポイント

- ・「ハブ」として機能しやすいアクセスのよい場所
- ・子どもが一人でも通える場所
- ・広さがあること

（1－2）博物館見学ツアー報告

富士宮市埋蔵文化財センターと富士山かぐや姫ミュージアム見学ツアー

日 時 令和7年9月28日（日）9:00～15:30

会 場 富士宮市埋蔵文化財センター、富士山かぐや姫ミュージアム

参加者 20人

内 容 ① 埋蔵文化財センター見学、富士宮の歴史講座
② 富士山かぐや姫ミュージアム見学（説明：館長）
③ 意見交換

■意見交換での意見

特色を出す

- ・富士宮の特徴を出す。
- ・「かぐや姫」のようなインパクト、特色を出したほうが良い。
- ・名前も工夫を

予算

- ・予算は確保できるのか。中途半端なものは作りたくない。
- ・維持管理費は増えていくのでは。余裕があるか。
- ・費用対効果
- ・駅に近いほうが良い

場所

- ・市内の古い家など活用して分散してできないか。
- ・建てる場所は、へき地では足を運べない。まちなかがよい。
- ・駅前にコンパクトにつくって、まちの活性化になるのか。
- ・公園に隣接するとよい。

内容

- ・喫茶店があるとよい。
- ・若者に興味を持ってほしい。若者が楽しめるところに。
- ・昭和の歴史
- ・明るくしてほしい。まちの雰囲気をも明るく。
- ・富士・富士宮両方に土器など同じ展示がなくてもよい。
- ・個人的な研究に活用できる。
- ・高解像度のデジタルアーカイブ
- ・企画展で通いたくなるような展示を。

■参加者感想（博物館に関すること抜粋）

場所

- ・どこに設置するのかというのがとても気になる。街中という意見が多かったが、私もそう思う。
- ・立地場所が難しいと思う。中心市街地に立地できれば一番良いが、空地がほとんど無い。例を出せば、1 イオンの西側の空地（旧結婚式場跡地）、2 JRの市営駐車場（JRの了解が？）、3 きらら北側の駐車場（駐車場と併用できる方法が？）

上記三か所は、駅・世界遺産センター・浅間大社とも近いので立地できれば良い。

- ・浅間神社周辺に造ったらどうか。

内容

事業内容

- ・富士宮といえば、で浮かぶものをまるっと詰め込んでも……と思う。
- ・（やきそば等も含めて）メインは富士山と浅間大社。
- ・内容の楽しい富士宮独自の個性ある魅力的な博物館を目指して、集客のレベルも高い場ができますように。
- ・ただ歴史と言っても範囲が広く、全体を展示するだけでは分散してインパクトが無くなると感じる。ひとつのテーマを深掘りするイベントを行うのはどうか。
- ・実物展示は絞って3Dデジタル化するのも良いと思う、高解像度で、PCで家から見れる。
- ・学芸員と一緒に研究・勉強できると嬉しい。
- ・出来上がるまでと出来上がった後の苦労話等を読めるようにしては。
- ・箱物に予算を取らず、展示のみならずワークショップ、講義など人件費はかかるが内容をしっかり企画して頂きたい。
- ・遊びながら学べるスペース
- ・講習会、コミュニケーションを取る、講演会
- ・ワークショップ（体験型の講座・集会）
- ・何かポイント・目玉が必要。

施設・運営

- ・ただの箱物にならないようにみんなが気軽に立ち寄れる場所・子供達の学習の場所にして欲しい。富士宮の歴史を知り、ここに住んでいて良かったと思えるような形にして欲しい。
- ・モニター（テレビ画面）等は座って見られると集中できる。
- ・今の埋蔵文化財センターは市の中心から遠いし、建物の外観も館内の展示状態も、学校の資料室みたいで貧弱。改善を絶対にしていくべき。
- ・埋蔵文化財センターの建設位置、車でなければ行けない所では、つい足が遠くなってしまう。沢山の埋蔵品があると知り、関わってくださる方の大変さを感じた。
- ・現状で市民が富士宮の歴史文化を学び知る良い場所が無いのは本当に残念。市民だけでなく、他の地から訪れた観光客や研究目的の方々にも利用してもらえる博物館を是非とも欲しい。
- ・富士宮市は公共交通機関が使いづらいので駐車場などの使い易いような工夫が大切だと思う。
- ・始めは作らなくてもいいと思ったが、あんなに土器や資料物があるのにはびっくりして、博物館ではなくその資料を保管するためだけの場所を作るだけでいいのではないかと思った。富士山信仰、富士講などの話もあったので、富士山世界遺産センターの中に展示するでもいいのではないかと思う。富士山世界遺産センターがあるのにまた？と思う市民は沢山居ると思う。もし作るのであれば世界遺産センターとの違いや、なぜ必要なのかを市民にも分かるように説明して欲しい。
- ・子供から大人・時間豊富な高齢者の心落ち着ける素敵な居場所にして欲しい。
- ・ショップに本が沢山あると嬉しい。
- ・土日祭日開館する。料金を取る様にする（100～300円？）
- ・クラウドファンディングで費用を募ることも、ひとつでは？

◆施設整備計画 検討資料

基本構想で策定した「施設整備の基本方針」に、これまでの議論を踏まえて、追記（青字）しました。

1 施設整備方針

「基本理念」や「事業活動計画」を実現するため、以下の方針に基づき本施設を整備します。

1 博物館活動の基盤となる機能を十分に備えた施設とします。

- ・事業活動計画の実現に必要な機能・規模を確保した施設とします。
- ・富士宮市の歴史・文化に関わる貴重な資料を確実に継承し、適正に公開活用するための展示・収蔵環境を備えます。国宝・重要文化財等の借用公開も可能な施設を目指します。
- ・郷土資料館と埋蔵文化財センターの機能を統合・強化しながら、コンパクトな施設を目指します。

2 資料を安全に収蔵することができる施設とします。

- ・自然災害から貴重な収蔵資料を守ることができる立地に設置します。
- ・自然災害による被害を最小限にとどめ、収蔵資料を安定的な環境の下で収蔵することができる施設を整備します。
- ・文化財 I P M（総合的有害生物管理）※を考慮し、外部からの害虫の進入や屋内での営巣や繁殖を防ぐための工夫を導入します。

※できるだけ薬剤に頼らずに生物被害を防止する文化財管理技術のことで、建築や設備、運営管理等の総合的な工夫により虫菌害を防止する。

3 多様な人々が訪れ、集い・交流する開かれた施設とします。

- ・訪れる利用者に、市民や学芸員の活動が見える施設とすることで、市民等による活動や来館者どうしの交流を促す空間を整備します。
- ・障がい者や外国人、子ども連れ、高齢者など、多様な利用者が気軽に訪れ、快適に利用できるよう、ユニバーサルデザインやインクルーシブデザインに配慮します。
- ・感染症対策への対応など、安全・安心に利用できるよう配慮します。
- ・周辺施設との連携も考慮しながら、必要な駐車スペースの確保を目指します。

4 周辺地域の景観に調和したデザインとします。

- ・周辺地域の景観や環境に調和し、市民の誇りとなるような優れた建築デザイン、外構・植栽計画を目指します。

5 環境への負荷をできる限り低減した施設とします。

- ・館内でのエネルギー消費を低減するための工夫を、積極的に導入します。

2 整備方法

本施設は以下の考え方にに基づき整備します。

備える機能

- ・収集保存、調査研究、展示公開、教育普及、埋蔵文化財、利用者サービス及び管理運営の各部門を整備します。
- ・施設の老朽化と災害リスクが懸念される埋蔵文化財センターの機能を、本施設に併設します。現在の埋蔵文化財センターは立地などの観点から廃止します。
- ・郷土資料館は、本施設に統合します。

整備の考え方

- ・本施設で必要となる機能の全てを整備することができる既存の建物がないため、新築することを前提とします。
- ・整備及び維持管理費用を勘案し、必要な機能を満たしつつもできるだけコンパクトな建物を整備します。
- ・埋蔵文化財センターの収蔵庫など一部機能については、市内の遊休施設等を活用した外部保管も含めて検討し、整備費の抑制による財政負担の軽減を図ります。

3 施設の全体構成

(1) 構成部門の概要

① 収集保存部門

- ・資料の収集と受入・保存管理を行います。
- ・収蔵計画を基に必要な収蔵環境を整備します。
- ・借用資料の仮保管スペースとして一時保管庫を設けます。
- ・計画諸室・スペース：収蔵庫、収蔵庫前室、一時保管庫、荷解室、搬入口・トラックヤード 等

② 調査研究部門

- ・学芸員及び市民等が調査研究を行います。
- ・資料整理室や調査研究室、書庫や資料閲覧室等の付帯諸室を整備します。
- ・計画諸室・スペース：歴史資料整理室、資料閲覧室、調査研究室、市民研究室、書庫 等

③ 展示公開部門

- ・富士宮の歴史や文化をテーマに、市民や来訪者にむけて展示・公開を行います。
- ・企画展示室には、市民による研究発表や借用資料の展示も可能なケース等の汎用性のある展示設備を設けます。
- ・計画諸室・スペース：常設展示室、企画展示室、展示準備室 等

④ 教育普及部門

- ・学校団体や市民向けの学習プログラムや講座等を行います。
- ・「収集保存部門」や「埋蔵文化財部門」と連携し、収蔵資料の整理作業等が見学できる諸室配置や仕様を検討します。
- ・計画諸室・スペース：多目的室、図書・情報室 等

⑤ 埋蔵文化財部門

- ・埋蔵文化財部門として必要な諸室を整備します。
- ・収蔵庫やトラックヤード、事務室等を「収集保存部門」と共有化することにより施設規模の効率化を図ります。
- ・計画諸室・スペース：考古資料整理室、仮保管室 等

⑥ 利用者サービス・交流機能

- ・ 各種サービスや交流の場を提供します。
- ・ 市民や来訪者に向けて開かれた施設の顔として、居心地のよい開放的な空間を整備します。
- ・ 館内での活動が垣間見られる空間とし、展示や様々な活動に対して来館者の興味・関心を高めます。
- ・ 可変性の高い仕様とし、小規模な展示やイベントなど、多様な活用が可能な空間とします。
- ・ 計画諸室・スペース等：エントランスホール、受付・インフォメーション、休憩・飲食スペース、キッズスペース、授乳室、救護室、バリアフリースイレ、ロッカー、情報コーナー、ミュージアムショップ 等

⑦ 管理運営部門

- ・ 施設の管理運営を行う部門。職員のための各種執務スペース及び施設維持管理のための必要諸室を整備します。
- ・ 計画諸室・スペース：事務室、更衣室、シャワー室、倉庫、電気・機械室 等

（２）施設構成と概要

ここまでの検討や令和6年度に実施した「文化財保存管理調査」の結果をふまえると、本施設に必要な諸室と規模は以下の通りとなります。なお、詳細な面積については、立地の規模等をふまえて今後決定します。

※グレーの文字は基本構想と同様の記載

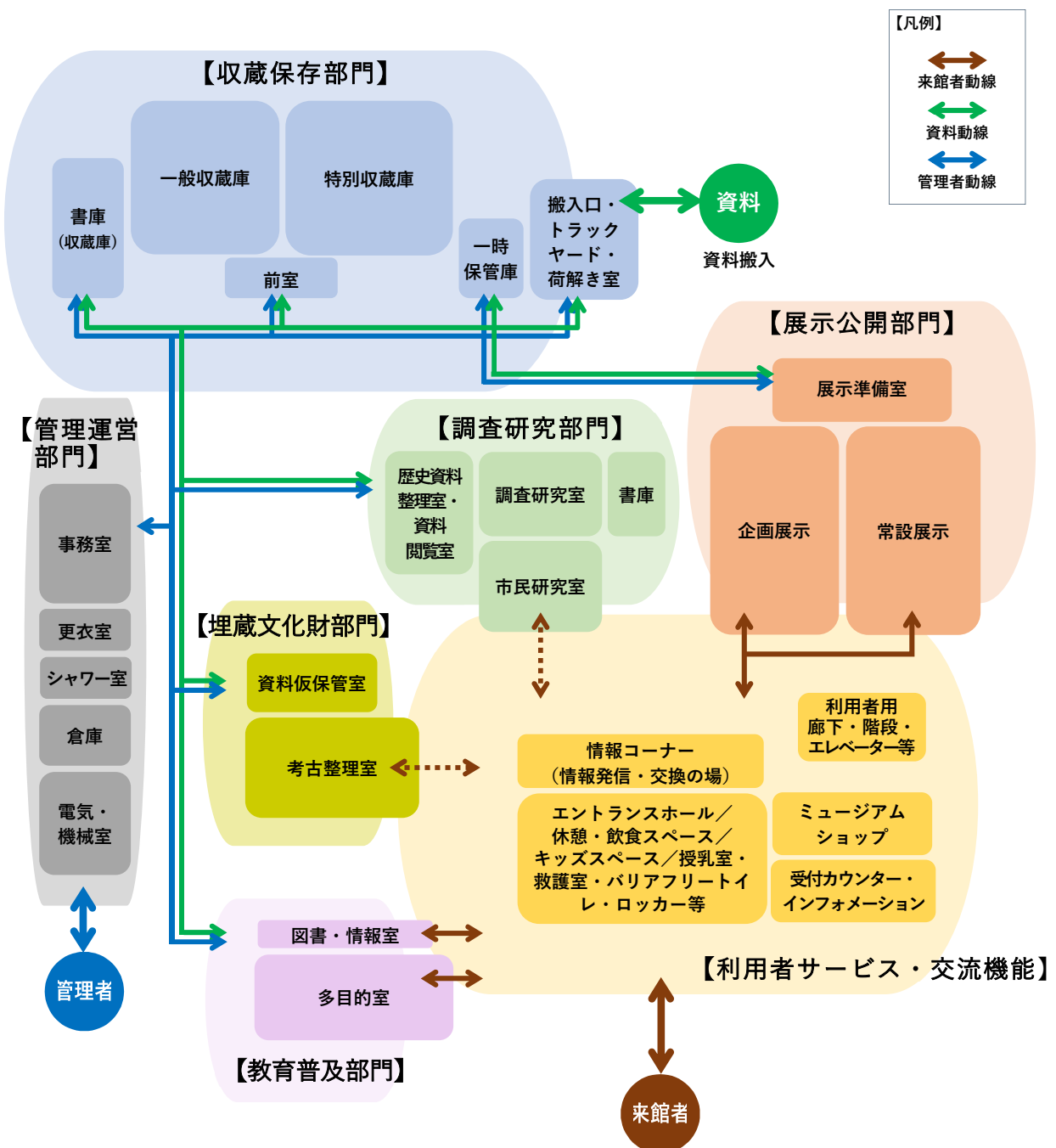
基本構想				基本計画（案）					
部門	主な諸室	求められる機能	想定規模	部門	主な諸室	概要	各室 想定規模	部門別 想定規模	
収集保存	搬入口・ トラックヤード	・閉鎖空間で資料の搬入・搬出を行うための設備を備える。 [規模の考え方] ・搬入車両を収容し、搬入・搬出を安全に行うために十分な規模を備える。	約400㎡ [約15%]	収集保存	搬入口・ トラックヤード	・閉鎖空間で資料の搬入・搬出を行うための設備を備える。 ・搬入車両を収容し、搬入・搬出を安全に行うために十分な規模を備える。	50㎡	540㎡	
	荷解室	・搬入資料の開梱作業、梱包材を保管する。			荷解室	・搬入資料の開梱作業、梱包材を保管する。	50㎡		
	収蔵庫前室、収蔵庫	・歴史・美術工芸・民俗資料を収蔵する。 ・一般収蔵庫のほか、脆弱な資料を保管するため恒温恒湿機能や消火設備などを備えた特別収蔵庫を整備する。 [規模の考え方] ・現状の収蔵面積に加えて、今後の増加を考慮した必要規模を備える。 ・民俗資料は、屋外展示や他施設を活用した収蔵保管など効率的な収蔵方法とあわせて必要面積を検討する。			収蔵庫前室	・特別収蔵庫・一般収蔵庫共通の前室。	20㎡		
		二次資料保管室			・写真フィルム・音声・映像・メディア等の二次資料を収蔵する。	特別収蔵庫	・特に厳密な保存環境管理が必要な文書・民俗・図書資料を保管する。 ・現状の収蔵面積に加えて、今後の収集面積として現状の3割程度の面積を備える。		180㎡
					一時保管庫	・他館からの借用資料の一時保管、温湿度環境に適応させるための慣らしを行う。	一般収蔵庫		・民俗・考古資料を除湿管理を中心として保管する。 ・今後の収集面積として現状の3割程度の面積を備える。
					書庫（収蔵庫）	・収蔵保管の必要な図書資料類を保管する。	70㎡		
調査研究	歴史資料整理室	・歴史・美術工芸・民俗資料等の整理作業を行う。 ・資料撮影室の機能を備える。	約200㎡ [約8%]	調査研究	歴史資料整理室	・歴史・美術工芸・民俗資料等の整理作業を行う。 ・資料撮影室の機能を備える。	20㎡	160㎡	
	資料閲覧室	・収蔵資料の閲覧を行う。			資料閲覧室	・収蔵資料の閲覧を行う。	-		
	調査研究室	・学芸員や教育普及担当職員が調査研究活動を行う。			調査研究室	・学芸員や教育普及担当職員が調査研究活動を行う。	50㎡		
	市民研究室	・市民や子どもたち等が調査研究活動を行う。 ・来館者から活動の様子が見えるよう工夫する。 [規模の考え方] ・約100㎡			市民研究室	・市民や子どもたち等が調査研究活動を行う。 ・来館者から活動の様子が見えるよう工夫する。 ・学校の教室 1 部屋程度を想定。	60㎡		
	書庫	・調査研究に必要な書籍等を保管する。			書庫	・調査研究に必要な図書資料を保管する。 ・今後の増加を考慮した必要規模を備える。	30㎡		
	展示公開	常設展示室			・富士宮市の歴史・文化を紹介する「総合展示」「テーマ展示」を行う。 ・市内回遊へと誘う展示解説を備える。 ・ジオラマ、展示ケース、体験展示、映像音響等の展示設備を備える。 ・温湿度管理空調、ガス消火設備、展示ケース等を備える。 ・通年展示とする。	約400㎡ [約15%]	展示公開		常設展示室
企画展示室		・収蔵資料と借用資料による企画展示を行う。 ・市民・小中学生などの研究成果を展示する。 ・展示室を分割して使用することができるようにする。 ・温湿度管理空調、ガス消火設備、展示ケース、可動壁等を備える。	企画展示室	・収蔵資料と借用資料による企画展示を行う。 ・市民・小中学生などの研究成果を展示する。 ・展示室を分割して使用することができるようにする。 ・温湿度管理空調、ガス消火設備、展示ケース、可動壁等を備える。	100㎡				
展示準備室		・展示の準備作業を行う。 ・展示備品の保管用倉庫を兼ねる。	展示準備室	・展示の準備作業を行う。 ・展示備品の保管用倉庫を兼ねる。	50㎡				

基本構想				基本計画（案）				
部門	主な諸室	求められる機能	想定規模	部門	主な諸室	概要	各室 想定規模	部門別 想定規模
教育普及	多目的室	・学校団体等の座学、市民等による調査研究の発表、講演会等、講座室として利用できるよう映像音響設備を備える。 ・体験型の教育普及プログラムを行うワークショップルームとして利用することができるよう、作業台や手洗い場などを備える。	約150㎡ [約6%]	教育普及	多目的室	・学校団体等の座学、市民等による調査研究の発表、講演会等、講座室として利用できるよう映像音響設備を備える。 ・体験型の教育普及プログラムを行うワークショップルームとして利用することができるよう、作業台や手洗い場などを備える。 ・学校の2クラス分の利用人数を想定。	130㎡	150㎡
	図書・情報室	・富士宮の歴史・文化を知るための図書を集めた開架式書架、収蔵品データベースや歴史文化資源データベースの閲覧端末を備える。			図書・情報室	・富士宮の歴史・文化を知るための図書を集めた開架式書架、収蔵品データベースや歴史文化資源データベースの閲覧端末を備える。	20㎡	
埋蔵文化財 センター機能	考古資料整理室	・発掘資料等の整理作業を行う。 ・資料撮影室の機能も備える。 ・来館者から活動の様子が見えるよう工夫する。	約550㎡ [約21%]	埋蔵文化財	考古資料整理室	・発掘資料等の整理作業を行う。 ・資料撮影室の機能も備える。 ・来館者から活動の様子が見えるよう工夫する。	80㎡	110㎡
	資料仮保管室	・考古資料等の整理作業前の資料を仮保管する。			資料仮保管室	・考古資料等の整理作業前の資料を仮保管する。	30㎡	
	収蔵庫前室、収蔵庫	・資料（考古）の特性に合わせて収蔵庫を設置する。 ・資料の特性に応じて、収蔵庫扉、収蔵棚を備える。 [規模の考え方] ・現状の収蔵面積に加えて、今後の増加を考慮した必要規模を備える。 ・搬入口・トラックヤードは博物館との共用とする。			-	※埋蔵文化財センターの（考古資料）収蔵庫・前室は「収集保存部門」に統合	-	
利用者サービス	休憩スペース	・来館者等が休憩するためのスペースを備える。	約500㎡ [約20%]	利用者サービス・ 交流機能	利用者サービス・ 交流スペース	・博物館利用の入口・きっかけとなるサービス・交流スペース。可変性の高い什器や設備により、多目的な運用が可能な空間・仕様とする。 ・休憩・飲食スペース／キッズスペース ・ミュージアムショップ ・情報コーナー（情報発信・交換の場） ・エントランスホール ・受付カウンター／インフォメーション 等	-	500㎡
	ミュージアム ショップ	・出版物や体験プログラムの教材等を販売する。 ・備品倉庫を備える。						
	エントランスホール（案内、受付等）、授乳室、救護室、トイレ・だれでもトイレ、廊下・エレベーター					授乳室、救護室、トイレ・バリアフリートイレ、ロッカー、利用者用廊下、階段、エレベーター 等	-	
管理運営	事務室、更衣室、シャワー室、倉庫、電気・機械室 等		約400㎡ [約15%]	管理運営	事務室、更衣室、シャワー室、倉庫、電気・機械室 等		-	380㎡
施設合計			約2,600㎡	施設合計 （）内数値は基本構想時の想定面積との差異				2,240㎡ (-360.0㎡)
屋外	体験学習スペース（学校団体の昼食場所を兼ねる）、大型バスの車寄せ		約1,000㎡	屋外	※立地の状況を踏まえて検討			

※基本構想で想定していた屋外の「体験学習スペース」については、立地の状況等を勘案しながら、今後検討します。

(3) 施設ゾーニング・動線計画

- ・利用者動線と資料動線は交錯しないよう計画します。
- ・資料を取り扱う「収集・保存部門」や「展示・公開部門」等エリアを明快にし、文化財 IPM に配慮したゾーニングとします。
- ・開かれた施設利用の入口となる「利用者サービス・交流機能」を中心に、来館者の利用に供する「展示・公開部門」や「教育普及部門」等を近接させることで、利用者が自然に博物館活動にふれ、興味や関心を持ちやすい配置計画とします。



4 収蔵計画

(1) 収蔵方針

1

現在市で所蔵する郷土資料館及び埋蔵文化財センターの資料のうち、特に厳密な温湿度管理が必要な資料や、博物館の公開活用や調査研究に掛かる優先度の高い資料を中心に、本施設にて必要な収蔵スペースを確保します。

2

整備する収蔵スペースには今後の資料収集を見込み、所定の将来スペースを確保した計画とします。

3

資料の特性に応じた最適な保存環境を整備します。一次資料のほか、文献・映像・音声等の二次資料についても、適切な環境で保管・管理します。

4

国宝や重要文化財を含めた資料の借用展示のため、一時保管庫を整備します。

5

環境に配慮しながら安全に資料を収蔵できるよう、文化財IPM(総合的有害生物管理)を導入します。

6

所管する資料に関して、遊休施設等を活用した外部保管も含め、市内にて必要な収蔵スペースと保存環境の確保を行います。

(2) 必要収蔵面積の設定

① 収蔵資料ごとの保存環境レベル設定

- ・基本構想時の収蔵状況調査及びその後の追加調査結果を踏まえ、新博物館保管する資料を下表の通り設定します。
- ・考古、文書、民俗、図書等の各分野の収蔵資料について、脆弱性及び調査研究や公開活用にかかる重要度等の資料特性を踏まえた保存環境のレベル設定（レベルSからレベルCまで）を行い、新博物館の収蔵庫にはレベルS、S'、A-1の資料を保管します。
- ・レベルA-2、A'、B、Cの資料については、館外に収蔵スペースを確保します。

【保存環境のレベル設定】

【保存環境設定レベル】

レベルS	温湿度管理・遮光・防虫・防火・防カビ仕様
レベルS'	除湿管理・遮光・防虫・防火・防カビ仕様
レベルA	除湿管理・遮光・防虫・防火・防カビ仕様
レベルA'	遮光・防虫・防火仕様
レベルB	遮光・防虫・防火仕様
レベルC	遮光・防虫・防火仕様

必要 収蔵 面積 ※	資料		新博物館にて収蔵				新博物館以外にて収蔵（隔地収蔵）				
	資料種別	現保管場所	レベルS	レベルS'	レベルA-1	資料種別 必要面積合	レベルA-2	レベルA'	レベルB	レベルC	資料種別 必要面積合
	考古	富士宮市埋蔵文化財センター	.0㎡	15.0㎡	25.8㎡	40.8㎡	.0㎡	189.7㎡	16.2㎡	27.2㎡	282.8㎡
		旧芝川町内房民俗資料館	.0㎡	.0㎡	.0㎡		.0㎡	.0㎡	49.7㎡	.0㎡	
	文書	芝川会館	113.2㎡	.0㎡	.0㎡	113.2㎡	.0㎡	.0㎡	.0㎡	.0㎡	.0㎡
	民俗	富士宮市埋蔵文化財センター	5.9㎡	73.4㎡	.0㎡	79.2㎡	34.8㎡	201.9㎡	12.1㎡	.0㎡	264.9㎡
		旧芝川町内房民俗資料館	.0㎡	.0㎡	.0㎡		.0㎡	12.9㎡	3.2㎡	.0㎡	
	図書	富士宮市埋蔵文化財センター	7.7㎡	7.1㎡	62.6㎡	77.4㎡	14.5㎡	10.5㎡	5.6㎡	.0㎡	30.5㎡
	レベル別必要面積合計		126.8㎡	95.4㎡	88.4㎡		49.3㎡	415.0㎡	86.7㎡	27.2㎡	
	収蔵場所別必要面積合計		310.7㎡				578.2㎡				
計画全体必要面積合計		888.9㎡									

② 各収蔵庫の必要面積と保存環境の設定

- ・収蔵資料のレベル設定を踏まえ、各収蔵庫の必要面積と整備する保存環境は下表の通りとします。
- ・特別収蔵庫、一般収蔵庫については、前項の現状必要面積に加え、将来収集スペースとして、現状面積の3割程度見込んだ計画とします。
- ・各収蔵庫は、保管する収蔵資料の特性、レベルに応じた空調設備、内装建具、各種設備等を計画します。

室 名	保管資料概要	整備する保存環境の概要	面積
特別収蔵庫	特に厳密な保存環境管理が必要な文書・民俗・図書資料	<ul style="list-style-type: none"> ・温湿度管理が可能な空調・環境を整備。(Sレベル設定) ・現状の収蔵面積に加えて、今後の収集面積として現状の3割程度の面積を備える。 【内装建具】壁は二重壁構造。不透湿・断熱・調湿性に配慮した内装下地仕上、収蔵庫専用扉 【各種設備】収蔵什器、温湿度管理空調、ガス消火設備 	180㎡
一般収蔵庫	民俗・考古資料	<ul style="list-style-type: none"> ・カビの防除を主眼とした除湿管理が可能な空調・環境を整備 (S'レベル設定) ・現状の収蔵面積に加えて、今後の収集面積として現状の3割程度の面積を備える。 【内装建具】不透湿・断熱・調湿性に配慮した内装下地仕上げ、断熱気密扉 【各種設備】収蔵什器、除湿管理空調 	150㎡
収蔵庫前室		<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵庫に準拠した環境を整備 ・特別収蔵庫と一般収蔵庫の前室 	20㎡
書庫 (収蔵庫)	収蔵保管が必要な図書資料類	<ul style="list-style-type: none"> ・カビの防除を主眼とした除湿管理が可能な空調・環境を整備 (Aレベル設定) 【内装建具】不透湿・断熱・調湿性に配慮した内装下地仕上げ、断熱気密扉 【各種設備】収蔵什器、除湿管理空調 	70㎡
一時保管庫	他館からの借用資料	<ul style="list-style-type: none"> ・国宝・重要文化財等の借用も可能な環境を整備する。 ・温湿度管理が可能な空調・環境を整備。(Sレベル設定) 【内装建具】壁は二重壁構造。不透湿・断熱・調湿性に配慮した内装下地仕上、収蔵庫専用扉 【各種設備】：収蔵什器、温湿度管理空調、ガス消火設備 	20㎡

(3) 収蔵環境の整備方針

① 施設全体計画

ア. 施設全体での最適環境の確保

- ・資料の最適な保存環境を構築するためには、収蔵庫や展示室等の資料を直接的に保管する部屋だけでなく、施設全体で環境を整えることが重要となります。施設の基本性能を担保する建築計画や、基礎や屋根を含めた断面計画、動線・ゾーニングに配慮した諸室配置計画、各種設備計画等、施設全体で総合的に最適環境を確保する計画とします。

イ. 耐火性・耐震性

- ・収蔵庫は、十分な耐火・耐震性を確保する構造を採用。特別収蔵庫、一時保管庫は、個別の防火区画を設置します。
- ・建物の外装材は、外部からの類焼を防ぐため、不燃材料を採用します。

ウ. 立地環境に配慮した建築構造・断面計画

- ・立地のハザードマップに配慮した計画とします。
- ・地中からの湿気や近年増加する集中豪雨への対策として、地階への収蔵庫の設置は避け、収蔵庫の床高を地盤面から1 m以上確保した計画とします。
- ・収蔵庫の外壁に面する壁は二重構造とし、一階収蔵庫の場合は床下にドライエリアとなる地下ピットや防水層を設けるなど防湿に配慮した計画とします。
- ・速やかな雨水排水や雨漏りの少ない構造に配慮し、屋根は原則として勾配屋根を採用します。

エ. 資料の移動動線や市民活動へ配慮した館内配置

- ・資料の搬出入を行うトラックヤードから収蔵庫までの距離を最小限にし、資料を安全かつ効率的に移動可能な動線計画、収蔵関連諸室配置を計画します。
- ・多様な市民活動を促進しながら、博物館としてのセキュリティを確保するため、市民の利用区画と職員の管理区画、資料を収蔵する区画を明確に分けて配置します。

② 収蔵庫基本内装

- ・文化財収蔵庫として一定の断熱性（建築躯体の断熱措置に加え、内装側の断熱材や空気層）、気密性（不透湿層）、調質性のある建材を効果的に組み合わせた計画とし、収蔵資料の分類種別や素材特性等に応じて、空調設備仕様と併せ適正仕様（グレード）の想定を行います。断熱性・気密性・調湿性の確保により、空調負荷を低減し、ランニングコストを抑制します。
- ・特別収蔵庫および一時保管庫は二重壁とし、より断熱性に優れた仕様とします。さらに、温湿負荷の大きい外壁に面する壁については空気層を設けた二重壁構造とし、点検口による点検が可能な仕様とします。

- ・前室と収蔵庫の床はフラットとし、3.5メートル程度の天井高を確保します。
- ・収蔵庫の内装に用いる材料は、有機酸などの文化財有害ガス発生の極力少ないものを使用します。また、掃除や点検、虫の発見しやすさも考慮した明るい色調を基本とします。
- ・床材については、収蔵資料に応じ掃除やIPM管理のしやすさ、耐薬品性、土足や台車利用等庫内での運用管理を考慮し計画します。

③ 収蔵庫扉・建具

- ・収蔵庫の出入口扉は、設置する区画壁の性能を踏まえ防犯性および耐火性能、断熱・気密性能の高い仕様とします。特別収蔵庫及び一時保管庫の出入口扉は、断熱・気密性能に加えて防犯性および耐火性能の高い収蔵庫扉とします。
- ・資料の搬出入時に簡易的に空気を遮断できる木製引戸（設置場所に応じ片引戸、両開き戸も検討）による内扉を検討します。

④ 収蔵什器

- ・資料の形状、寸法、材質、収納容器等の特性に応じた什器を整備します。
- ・考古や文書、図書資料等の資料については、収蔵量確保を考慮し、移動式集密棚による保管を検討します。
- ・収蔵什器の仕様は資料の出し入れの容易さに加え、出し入れ時の運用者の安全性にも十分に配慮します。
- ・新設する収蔵什器に用いる塗料や木材は、文化財有害ガス発生の極力少ないものを使用します。
- ・収蔵什器のレイアウトは、カビの抑制や清掃、点検のしやすさを考慮し、収蔵庫内の空気循環を妨げない配置とします。また、各種建築設備の位置と干渉しないよう調整を行います。
- ・地震対策として、収蔵什器の転倒防止対策を行います。什器は建築の床壁などに適正に固定し、什器同士については上下連結や頭つなぎ等を実施します。また、壁面メッシュパネルなど、壁に直接荷重がかかる収蔵什器を設置する場合は、設置壁面の下地補強を行います。
- ・収蔵什器からの資料の落下・飛び出し防止のため、落下防止措置を行います。

⑤ 各種建築設備

ア. 空調・換気設備

- ・収蔵する資料の種別や材質に合わせ、適正な温度・湿度環境の管理が可能な空調設備を設置します。
- ・特別収蔵庫及び一時保管庫の温湿度制御に関しては、環境負荷の低減に配慮した恒温恒湿制御を想定します。ただし、湿度は通年で一定とするものの、温度については外部との気温差を考慮し季節ごとに緩やかに調整も可能な計画とします。また、24時間自動運転を基本としますが、運用に応じて時間運転や季節運転等も可能な仕様とします。

- ・二重壁内の汚染空気や虫菌の庫内への還流、侵入や壁内の結露リスクへの配慮から、庫内は直接二重壁内および二重壁内と連続する天井裏空間と換気口などで接続しない個別の空調区画とし、二重壁内と連続する天井裏に枯らし※の促進および湿気溜まりの解消を目的とした換気設備の設置を行います。
※建築材料から放出される化学物質（ここでは特に文化財汚染物質）や水分の放散・除去のこと。
- ・フィルター設備については、外部からの排気ガスや塵埃、虫菌の侵入防止に配慮した仕様とします。ケミカルフィルター等の設置により、有機酸やアンモニア等の文化財有害ガスを除去可能なものとします。

イ. 消防設備

- ・消防法に準拠し適正な消防設備を設置します。特別収蔵庫および一時保管庫については、消火時に水損リスクのないガス系消火設備を導入します。

ウ. 防犯設備

- ・収蔵庫の入口は原則一ヶ所とし、特別収蔵庫及び一時保管庫入口には耐工具強度などを備えた防犯性能の高い収蔵庫専用扉を設置します。
- ・防犯カメラや機械警備等の防犯設備により、収蔵庫単体だけでなく、施設全体として総合的に高いセキュリティを確保します。

エ. 照明・コンセント設備

- ・収蔵庫の照明設備は、文化財IPMの観点から掃除や点検時の視認性を高めるため、500ルクス程度の照度を確保した計画とします。また、資料の色の見え方にも配慮し、各展示室や展示準備室、調査研究室等と光源の色温度に近い器具仕様を検討します。
- ・照明器具は、紫外線の発生のないLEDとします。
- ・収蔵庫内のコンセント設備は、埃や虫等のトラッキングによる出火リスクに配慮し、前室のスイッチにて通電を切れる仕様とします。

オ. 通信設備

- ・気密性の高い収蔵庫・前室内は電波が届きにくいことから、各室に電話回線を設けることとします。
- ・収蔵庫内からの館内システムへの接続を考慮し、前室および庫内にLAN端末を設けます。

3 立地

◆立地選定 検討資料

【郊外型／都市型比較】

	郊外型	都市型
立地イメージ	市北中部の富士山麓エリア	主要駅に近い中心市街エリア
参考候補地※	白糸自然公園、富士山さくらの園、万野風穴池田公園	きらら駐車場、神田川観光駐車場
施設への 交通アクセス	・公共交通機関が限られるため、自家用車、団体バス利用が中心となる	・公共交通機関を用いて徒歩でアクセス可能
用地確保	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的広い敷地が確保しやすい ・敷地内に屋外の体験学習スペースが確保しやすい ・敷地内に駐車場が確保しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・郊外と比べ確保可能な敷地と面積が限られる ・敷地内に屋外の体験学習スペースを確保しにくい場合は、屋上利用などの代替案を検討 ・敷地内に十分な駐車場を確保できない場合は、周辺駐車場との連携などを検討
施設計画	<ul style="list-style-type: none"> ・都市型と比べ施設規模や配置計画等において自由度の高い検討が可能。 ・周辺の自然や景観を活かした施設計画が検討可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地条件により可能な施設規模や配置計画等に制約がある ・建物の高層化や、周辺施設との機能連携等によりコンパクトな施設計画が検討可能
集客性 ・ 回遊促進効果	<ul style="list-style-type: none"> ・来館目的で訪れる人が中心となる ・周辺の自然公園や観光地等への回遊効果が期待できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・来館目的で訪れる人に加え、周辺施設利用者による立ち寄りが期待できる ・周辺の文化施設や商業施設への回遊効果、経済効果等が期待できる
まちづくりへの 寄与	<ul style="list-style-type: none"> ・本施設の整備だけでは、まちづくりの寄与は難しい ・市内の回遊性を向上するためには、交通アクセスの拡充や、周遊につながるルート開発などが求められる 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかの交流拠点として、「富士宮市世界遺産のまちづくり整備基本構想」における各エリアとの相乗効果が期待できる
文化財保存施設 としての 災害リスク	<ul style="list-style-type: none"> ・各種ハザードマップへの配慮が必要 ・外部自然環境に起因する文化財 IPM への配慮が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種ハザードマップへの配慮が必要 ・火災やゲリラ豪雨等の都市災害への配慮が必要

※参考候補地：本計画検討段階での暫定情報です。新たな候補敷地の追加も含め、今後の検討により変更となる可能性があります。

【参考候補地基礎情報】 ※表中の候補地は計画検討段階での暫定情報となります。新たな候補地の追加含め今後の検討により変更される可能性があります。

立地タイプ		郊外型			都市型	
候補地		白糸自然公園※2区画の候補あり	富士山さくらの園	万野風穴池田公園	きらら駐車場	神田川観光駐車場
所有者		富士宮市	富士宮市	富士宮市	富士宮市	富士宮市
住 所		白糸436-1	栗倉3759-463	山宮2179	中央町151番地11	宮町345-20
敷地概要	面 積 ※1	約34,000㎡／5,300㎡	約 20,600 ㎡	約 9,600 ㎡	2,994.55 ㎡	7,746.13 ㎡
	用途地域 (地区計画の有無) ※2	市街化調整区域（地区計画なし）	市街化調整区域（地区計画なし）	準工業地域（容積率200%、建ぺい率60%）（地区計画なし）	商業地域（容積率400%、建ぺい率80%）、準防火地域（地区計画なし）	第二種住居地域（容積率200%、建蔽率60%）日影規制あり（10m以上）（地区計画なし）
	標高（参考値） ※3	515.3m	526.5 m	250.4m	120.0m	112.1～115.7m
既存施設・構造物の有無		既存建物あり（白糸ふれあいホール、倉庫、管理人棟、トイレ兼休憩所、わんパーク）	既存建物あり（トイレ、遊具）	既存建物あり（トイレ、倉庫）	既存構造物あり（駐車場バーゲート、駐輪場）	既存建物あり（駐車場バーゲート、トイレ、観光課倉庫）
交通アクセス	公共交通機関		運行なし。	JR富士宮駅よりバス（外神）14分＋徒歩14分。	JR富士宮駅より徒歩5分。	JR富士宮駅より徒歩11分。世界遺産センターバス停より徒歩3分。
	駐車スペース (現状での駐車スペースの有無)	自家用車等	公園内に乗用車約150台分の駐車スペースがある。	敷地内に乗用車約30台分の駐車スペースがある。施設整備の際は、配置も含めた駐車スペースの検討が必要。	敷地内に駐車スペースがある。	乗用車約105台分の駐車スペースとして利用されている。施設整備の際は、配置も含めた駐車スペースの検討が必要。
		大型バス	公園内に大型バス4台分の駐車スペースがある。	駐車場や乗降スペース、進入路の拡幅の整備が必要。	駐車場や乗降スペース、進入路の拡幅の整備が必要。	乗用車100台分と自動二輪車25台分の駐車スペースとして利用されている。施設整備の際は、配置も含めた駐車スペースの検討が必要。
回遊促進効果	徒歩圏内の主な歴史文化資源 (1キロ圏内)		10件 狩宿の下馬ザクラ、井出家高麗問・長屋、上井出歴史広場、芝山浅間神社、富士講信者の建てた碑、音止めの滝、曾我兄弟の隠れ岩、工藤祐経の墓、白糸の滝、文殊堂 等	0件	0件	22件 大頂寺、平等寺、宗心寺、富士山本宮浅間大社、湧玉池、若之宮浅間神社、二之宮浅間神社、兵松寺、馬車道、大宮町鉄道馬車会社発着所の碑、矢立池の碑、悪王子神社、二つ石、横道観音、馬車道、大宮網状溶岩、御神幸道三丁目の碑、福石神社、蔵屋敷稲荷、神田市神社、中央町のカヤ、芙蓉館碑、富士見石、富知神社、渋沢用水、水神碑、本光寺、富士亦八郎重本筆跡の道祖神、忠正寺、貴船神社、大泉寺、善能寺等
	主なサービス機能・文化施設等 (1キロ圏内)		4件 上井出出張所、西富士図書館、白糸の滝観光案内所、白糸出張所	0件 ※富士登山富士宮ルートへ至る富士山スカイライン沿い。	2件 市民体育館、外神東公園	5件 富士山世界遺産センター、市民文化会館、市立中央図書館、駅前交流センターきらら、富士宮市役所
まちづくりへの寄与		白糸の滝との一体的な周遊が期待できる。	アクセスの強化や、周遊につながるルート開発などが求められる。	アクセスの強化や、周遊につながるルート開発などが求められる。	「富士宮市世界遺産のまちづくり整備基本構想」における「にぎわい創出ゾーン」の東側エリア・商店街への拡張・回遊促進効果が期待できる。 	「富士宮市世界遺産のまちづくり整備基本構想」におけるコアエリアの「参道軸創出ゾーン」の一層強化が期待できる。

		白糸自然公園※2区画の候補あり		富士山さくらの園		万野風穴池田公園		きらら駐車場		神田川観光駐車場	
敷地の自然災害リスク	浸水域 ※4	○	指定外	○	指定外	○	指定外	○	指定外	○※	指定外（※浸水域に近接）
	土砂災害 ※4	○	指定外	△	警戒区域	○	指定外	○	指定外	○	指定外
	想定火口範囲 ※5	○	指定外	○	指定外	○	指定外	○	指定外	○	指定外
	溶岩流 ※5	○	指定外	×	溶岩流が2時間で到達する可能性のある範囲	×	溶岩流が12時間で到達する可能性のある範囲	△	溶岩流が7日間で到達する可能性のある範囲	×	溶岩流が24時間で到達する可能性のある範囲
	火砕流・火砕サージ ※5	○	指定外	○	指定外	○	指定外	○	指定外	○	指定外
	融雪型火山泥流 ※5	○	指定外	×	融雪型火山泥流が1時間で到達する可能性のある範囲	×	融雪型火山泥流が1時間で到達する可能性のある範囲	×	融雪型火山泥流が2時間で到達する可能性のある範囲	×	融雪型火山泥流が2時間で到達する可能性のある範囲
	大きな噴石 ※5	○	指定外	×	大きな噴石が到達する可能性のある範囲	○	指定外	○	指定外	○	指定外
	降灰・降灰後土石流 ※5	△	降灰10cm以上30cm以下の範囲	×	降灰10cm以上30cm以下の範囲。土石流危険渓流付近	△	降灰10cm以上30cm以下の範囲	△	降灰10cm以上30cm以下の範囲	△	降灰10cm以上30cm以下の範囲
	活断層 ※6	直下に活断層はない		直下に活断層はない		直下に活断層はない		直下に活断層はない		直下に活断層はない	
	液状化 ※4	○	指定外	○	指定外	○	指定外	○	指定外	△	敷地の一部が液状化可能性ランク中に該当
その他特記事項		<ul style="list-style-type: none"> ・樹木の伐採が必要。 ・敷地付近に高圧線・鉄塔あり。送電線の下には建築できない。 ・敷地内に屋外大型ステージ建設予定。 ・敷地内既存建物あり。収蔵機能への活用が想定されるが、耐震性等の検証が必要。 		<ul style="list-style-type: none"> ・樹木の伐採が必要。 ・噴火口が近い。 ・富士山噴火前後の第2次避難対象エリア内のため、避難計画の策定が必要。 		<ul style="list-style-type: none"> ・敷地の大部分が「天然記念物「万野風穴」保存管理計画」におけるB地区に指定されており、現状変更行為に制限がある。指定地区外にも未知の洞穴が存在する可能性があり、地下に影響を与える工事等には慎重な検討・事前調査を要する。 ・敷地の一部が埋蔵文化財包蔵地となっており、当該範囲に開発行為を行う場合には発掘調査を要する。 ・富士山噴火前後の第2次避難対象エリア内のため、避難計画の策定が必要。 ・周辺環境として、工場からの騒音や風紀上の課題がある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・立地から地下水位が高いとの情報あり。地下利用には慎重な検討が必要。 ・現駐車場はきらら及び商店街利用者等の利用があり、本施設整備後も駐車台数の確保が必要。駐車スペースの一部は別敷地で確保するなどの検討が必要。 		<ul style="list-style-type: none"> ・道路を挟んだ敷地が潤井川浸水想定区域に該当。浸水時に交通アクセス等に影響が生じる可能性あり。 ※4  <ul style="list-style-type: none"> ・既存の観光バスの駐車・旋回スペースを確保した計画が必要。 ・市街地の大型バス駐車場が限られているため、台数の確保が必要。 ・敷地が建設省所有地（下部暗渠有）で3分割されており確認要。 ・JRに影響がないように計画する必要あり。 	

【出典】

※1：富士宮市都市計画図（1:2500）を元に算定した概要敷地面積。きらら駐車場については求積図より算定。
神田川観光駐車場については『富士宮市神田川観光駐車場について』（H28.2.1付全員協議会資料、市より受領）による。

※2：富士宮市都市計画総括図(用途地域図)[R5.4月作成]　<https://www.city.fujinomiya.lg.jp/documents/1854/lIti2b00000005bem.pdf>

※3：富士宮市都市計画図（1:2500）

※4：富士宮市防災マップ_令和5年3月改訂　<https://www.city.fujinomiya.lg.jp/documents/4/ajq7h800000008t1x.pdf>.
富士宮市わが街ガイド宮まっぷ　<https://www2.wagmap.jp/fujinomiycity/Portal>

※5：静岡県富士山ハザードマップ（想定火口範囲、溶岩流の可能性マップ、火砕流・火砕サージの可能性マップ）_令和3年3月改定
<https://www.pref.shizuoka.jp/bosaikinkyu/sonae/kazanfunka/fujisankazan/1030190.html>.
富士宮市富士山火山避難行動マップ　<https://www.city.fujinomiya.lg.jp/documents/52/b4l1vf00000001xpl.pdf>

※6：地理院地図（電子国土WEB）<http://maps.gsi.go.jp/#14/35.20326389/138.5968889/&base=std&ls=std|afm&disp=11&vs=c1j0l0u0f0>

3

【参考】参考候補地候補地_地理的位置及び敷地面積(目安)確認図

◆各整備候補地の地理的位置



<富士宮市全体図 S=1/150000>
※Google マップを元に作成

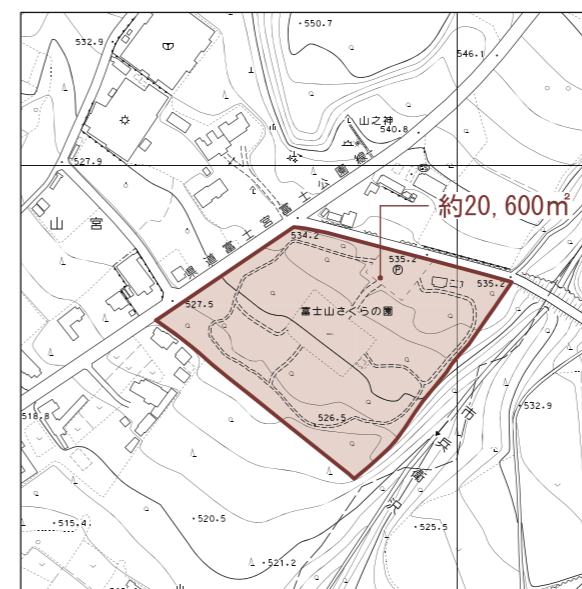
◆敷地面積(目安)確認図

※都市計画図上で算定した概寸敷地面積。100未満を切り捨てた数値を記載。
※正確な敷地境界は別途要確認。
※きらら駐車場及び神田川観光駐車場の敷地面積は求積図(富士宮市様より受領)による。

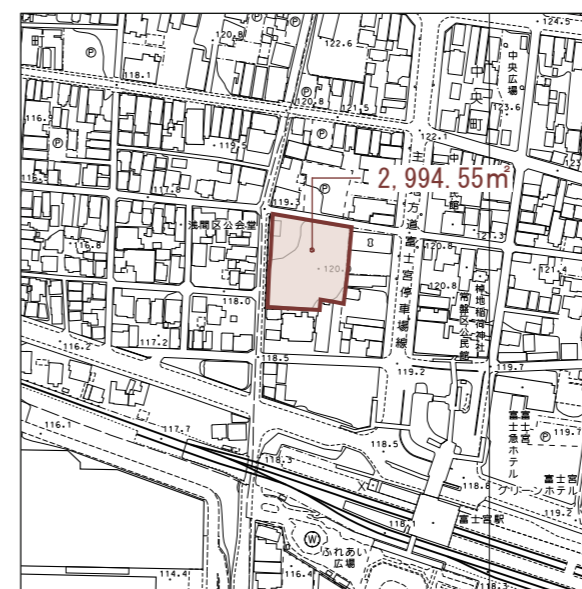
【凡例】

想定敷地範囲

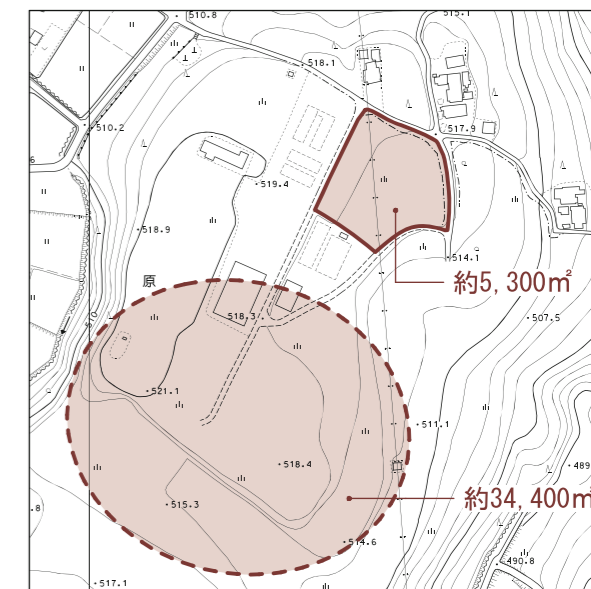
② 富士山さくらの園 S=1:5000



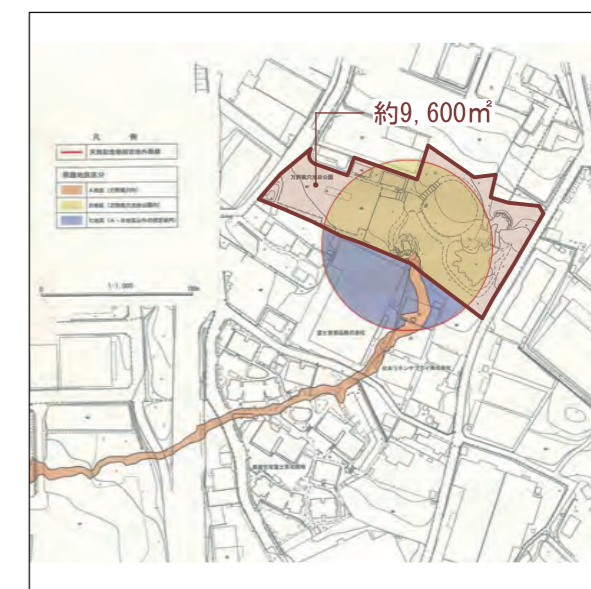
④ きらら駐車場 S=1:5000



① 白糸自然公園 S=1:5000



③ 万野風穴池田公園 S=1:5000



⑤ 神田川観光駐車場 S=1:5000

